

道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三日市 A 遺跡 7

2013

石川県野々市市教育委員会

例 言

- 1 本書は、三日市A遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市三日市町、稲荷地内である。
- 3 調査原因は宅地造成のための道路建設に伴うものである。
- 4 調査は、株式会社アド・ホームからの依頼を受けて野々市町教育委員会(当時)が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、株式会社アド・ホームが負担した。
- 6 調査は、平成18年度に実施した。遺跡名・面積・期間・調査体制は下記のとおりである。

遺 跡 名	三日市A遺跡
面 積	280㎡
期 間	平成18年11月27日～平成18年12月4日
調査主体	野々市町教育委員会(教育長 村上維喜)
担 当 課	野々市町教育委員会 文化振興課(課長 山下真弓)
調査担当	永野勝章(野々市町教育委員会文化課 主査)
整理・報告書作成作業	
担 当	永野勝章

- 7 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
- 8 調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 遺跡周辺位置図 (S=1/20000)

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は、石川県のはほぼ中央に位置する。北東は金沢市、南は白山市に隣接している。市の規模は東西約4.5km、南北約6.7km、面積は約13.56km²である。市域は手取川扇状地の扇尖部から扇端部に位置し、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。二日市A遺跡は野々市市の北部にあたる二日市町・三日市町・稲荷地内に所在する。この辺りは手取川扇状地の扇端部近くに立地し、標高は約15mと低く、扇状地を伏流する地下水の湧水域である。二日市A遺跡周辺は川畑の広がる田圃地帯であったが、昭和40年代に国道八号線の開通や国鉄野々市駅（現在のJR野々市駅）の開業があり周辺において住宅建設が進んだ。更に野々市市域北西部地区での区画整理事業によって商業施設や住宅が建ち並び、景観は大きく変わりつつある。



第2図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

ここでは当該遺跡とその周辺の遺跡を中心にして概観する。

野々市市における人々の営みは縄文時代に遡る。御経塚遺跡は縄文時代後・晩期の北陸を代表する大集落跡であり、その周辺には金沢市のチカモリ遺跡や中屋遺跡等も所在する。

古墳時代前期に入ると市域北部に所在する御経塚シンデン古墳群や二日市イシバチ遺跡（番号4）では前期の古墳が発見されているが、弥生時代後期に比べ集落数は減少する。また、これまで扇状地扇端部と比較して開発が低調であった扇尖部に立地する市域南部では、7世紀前半には上林古墳・木松古墳も築造され、更に7世紀後半にはこの地域での集落の規模が急激に拡大するとともに、石川県最古の寺院跡である木松廃寺が建立され、扇状地開発が大いに進んだことが明らかになっている。

古代には前時代に引き続き市域南部から中部にかけて上林新庄遺跡群や粟田遺跡・三納アラムヤ遺跡などで集落が展開する。また市域北西部の二日市A遺跡（番号1）ではこの時期の集落とともに古代北陸道が築造されている。

中世に入ると野々市市東部の扇が丘ハイゴク遺跡や扇が丘ゴショ遺跡では武士の居宅と見られる遺構が検出されている。野々市市住古町から扇が丘にかけては室町時代に加賀国守護を務めた常陸氏の居館である常陸館跡が所在する。このほか粟田遺跡や三納ニシヨサ遺跡・二日市A遺跡（番号1）・徳用クヤダ遺跡（番号6）・長池キタノハシ遺跡（番号3）など市域の広い範囲で集落跡を確認している。

番号	遺跡名	種別	時代
1	二日市A遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
2	長池ニシタンボ遺跡	集落跡	弥生
3	長池キタノハシ遺跡	集落跡	中世
4	二日市イシバチ遺跡	集落跡	縄文 弥生 中世
5	郷クボタ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
6	徳用クヤダ遺跡	集落跡	古代 中世
7	二日市ヒガシタンボ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世

第1表 周辺の遺跡一覧表

第2章 調査の経過と経緯

第1節 調査の経過

平成18年2月12日、開発者から野々市町教育委員会（当時以下、町教育委員会）に対して野々市町稲荷三丁目80番、100番、112番2において宅地造成・道路建設のための開発行為予定地の埋蔵文化財について調査依頼があった。町教育委員会では対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（三日市A遺跡）であると回答し、双方の間で協議を行い道路建設部分について発掘調査を行うことで合意した。10月10日、開発者より文化財保護法第93条第1項による土木工事等のための発掘届が町教育委員会に提出された。町教育委員会では建設工事によって地下の遺跡に影響の及ぶ範囲については発掘調査を行うとの意見を付して石川県教育委員会（以下、県教育委員会）に進達し、10月16日県教育委員会より発掘調査を実施する旨の通知があった。11月22日、開発者と町教育委員会の間で埋蔵文化財発掘調査の契約が締結された。調査面積は280㎡である。



第3図 調査区位置図 (S=1/5000)

発掘作業の経過として、11月27日に調査範囲設定・重機による掘削開始し、11月28日から12月2日まで作業員による発掘調査を行った。12月4日に機材搬出し、調査終了となった。

整理作業及び報告書作成は平成25年1～3月に野々市町教育委員会が実施した。

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構

今次調査では古代北陸道の側溝が2ヵ所確認された。本節ではその説明を行う。以下、2つの側溝のうち北側の側溝を側溝1、南側の側溝を側溝2とする。

側溝1（第4図）

調査区北部に位置し、方位の東西を水平としたとき北に25°振れる。規模は全長約18.2m、幅約1.5～1.7m、深さは最深部で約50cmである。東端は攪乱を受けて破壊されている。須恵器の杯（遺物番号1）が出土した。

側溝2（第4図）

調査区南部に位置し、方位の東西を水平としたとき北に21°振れる。規模は全長約7.4m、幅約1.0～1.9m、深さは最深部で約50cmである。

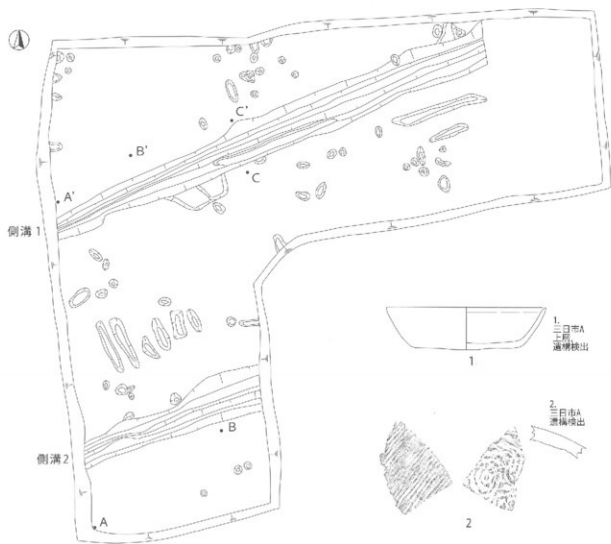
また、側溝1と側溝2の間の面が古代北陸道の道路面だと考えられる。

第2節 遺物

今次調査での出土遺物は須恵器2点、土師器1点の計3点である。このうち図示した須恵器2点について説明を行う。（第4図）

1は須恵器の杯である。古代北陸道北側溝上層から出土した。寸法は口径12.6cm、器高3.4cm、底径8.6cmを測る。色調は、内面は灰白色、外面は浅黄色主体だが口縁部は灰色を呈する。

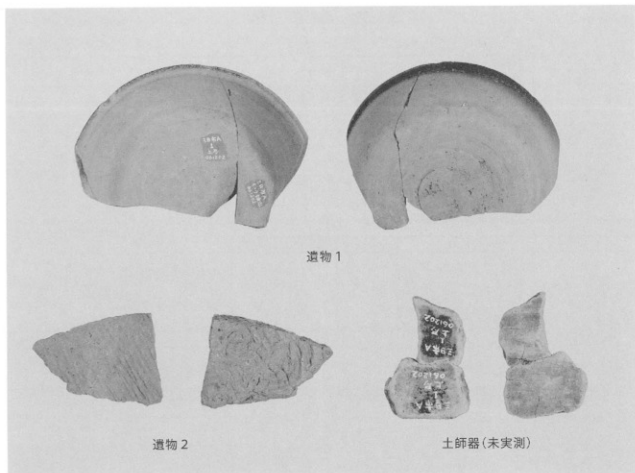
2は須恵器で器種は不明である。遺構検出時の出土である。寸法は厚さ1cm程度を測り、色調は灰色を呈する。



第4図 遺構全体図・土器実測図（遺構 S=1/150、遺物 S=1/3）



第5図 土層断面(S=1/60)



完掘 (西から)



側溝 1 (東から)



須恵器出土状況 (遺物 1)



遺構掘削作業風景

第6図 遺物・遺構写真

報告書抄録

ふりがな	みつかいちAいせき							
書名	三日市A遺跡							
副書名	道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	永野 勝章							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 Tel:076-227-6122							
発行機関	野々市市教育委員会							
発行年月日	西暦 2013年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
三日市A遺跡	いしかわけん 石川県 ののいちし 野々市市 みつかいちまほ 三日市町 福荷三丁目	17344		36° 32' 04"	136° 32' 21"	20061127 ～ 20061204	280m ²	記録 保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
三日市A遺跡	集落跡	古代		道路状遺構		須恵器・土師器		
要 約	今次調査では古代北陸道の側溝が確認され、須恵器や土師器が見つかっている。							

道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三日市A遺跡

発行日 平成25年3月29日
 発行者 野々市市教育委員会
 〒921-8510
 石川県野々市市三納一丁目1番地
 電話 076-227-6122
 印刷 (株)画遊